

令和3年度学校評価に係る自己評価結果について

日立メディカルセンター看護専門学校

1 目的

本校の教育理念である「人々の生命と尊厳を基盤とし、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行うための専門知識・技術・看護実践能力を有し、社会の多様な価値観に対応できる専門職業人としての倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成」の実現に向けた学校運営を評価するため、自己評価を実施し公表する。

2 評価基準

学校を評価するための9つの大項目（学校運営、管理運営・財政、教育課程・教育活動、入学・卒業対策、学生生活への支援、施設設備、教員の育成、広報、地域との連携）について、大項目を構成する小項目を対象に、5（よい）、4（ややよい）、3（ふつう）、2（やや不十分）、1（不十分）、0（わからない）の6段階で評価を実施した。

3 評価者

看護専門学校教職員 18人

4 評価時期

令和3年度の学校運営を対象に令和4年4月に実施した。

5 評価方法

教職員に評価表を配布し各自において自己評価を行い、その結果について、意見交換等により内容を確認し自己評価結果として整理した。

6 結果

- (1) 9つの大項目（図1参照）の評価点については、「学校運営」、「管理運営・財政」、「入学・卒業対策」、「学生生活への支援」、「施設設備」、「広報」が4.0以上であり概ね良好な結果であった。
- (2) 一方、「教育課程・教育活動」、「教職員の育成」、「地域との連携」については、「ふつう」との評価3.0を上回っているものの、さらに評価を高める取組の余地があるものと考えている。
- (3) 「教育課程・教育活動」、「教職員の育成」、「地域との連携」の評価点が、他の評価項目に比べ低い結果となった要因としては、看護師養成3年課程に移行するなかで学生数も増えたことにより、多様な学生への教育や指導などの新たな環境へ

の対応、また、新型コロナ禍における制約があるなかでの学校運営などで、校外研修への参加、職員相互の情報共有化、地域との連携につながるような事業実施に難しさがあったものと考えている。

- (4) 自己評価結果を今後の学校運営に活かせるよう、評価の高いところは、さらなる評価向上に努め、評価の低いところは改善していくことに取り組むこととし、その実現に向けては、具体的な取組を掲げ、教職員間での情報の共有化を図りながら共通理解のもとで取り組んでいくこととする。

＜参考＞ 大項目に対する評価

1 学校運営 (4.6)

学校運営などについて次のように評価した。

- 学校運営に関する意思決定が風通し良く行われ、決定事項が職員に対し周知されている。
- 将来構想については、中長期的計画と学校運営に整合性が取れている。

2 管理運営・財政 (4.7)

組織の整備、教職員の職務、学籍管理、危機管理、事業計画と予算、学校評価などについて、次のように評価した。

- 教員組織と事務組織は専任者が配置され適正に連携し、教員と事務は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。
- 非常勤講師は、資格要件を明示しその要件に基づき選考している。
- 学籍簿は、学籍の記録、履修状況が正確に記載されているとともに、適切に保管されている。
- 日ごろから安全対策に取り組むとともに、防災訓練を適切な時期に適切な内容で実施するなど災害への対応に取り組んでいる。
- 地域医療に貢献する学校として事業計画を立て、運営母体となる日立メディカルセンターの全体計画の中に位置づけられている。
- 学校運営に係る基礎的なデータ等を踏まえ、自己評価を実施し公表している。

3 教育課程・教育活動 (3.7)

(1) 教育理念・目標、教育課程編成などについて、次のように評価した。

- 学校の教育理念及び目標は、看護師としての能力と人間性を高め、地域社会に貢献できる看護師を育成するとし、さらには、社会情勢への変化にも対応できる看護師育成を目指している。
- その実現に向けたカリキュラムについては、必要な科目設定及び時間を確保しているが、点検と見直しにおいて、学生及び教員の意見を反映させる取組に課題がある。

(2) 授業、実習、単位管理、学級経営などについて、次のように評価した。

- 学習支援については、カリキュラムガイダンス及びシラバスの説明を実施しているが、担当教員により学生の理解度に差が生じている状況が見受けられる。また、教育方法においては、学生の理解度を考慮するとともに視聴覚教材等を使用するなど工夫しているが、さらなる工夫や研究も必要と考えている。
- 授業については、タブレット端末を活用したわかりやすい授業を展開しているが、新型コロナウイルスの感染拡大により、授業が計画的に進められないところがあった。また、専門外の科目を担当せざるを得ないことや、授業に対する評価表の内容検討が不十分なところに課題がある。
- 実習については、学生に実習の目的や目標を明確に説明し共通理解の下で取り組んでおり、ケアを受ける対象者の権利や臨地実習における安全対策を十分に確保しているが、新型コロナ禍での実習であったことなどから実習施設との様々な調整に苦慮した。また、実習評価については、学生は専門領域ごとに自己評価を行っているが、客観的評価につながっていないところがありその改善を要する。
- 成績評価及び単位設定は、基準を学則やシラバスに明示しているとともに、科目試験では結果と模範解答を学生に伝え、学生の学習課題を明らかにしている。
- 学級運営については、クラスの特性に合わせてホームルームを行っている。また、悩みを抱えた学生に対しては、教員、カウンセラー及び父母等が連携しながら学生への支援体制を確保している。

4 入学・卒業対策 (4.6)

入学選抜、進路などについて、次のように評価した。

- 学生募集については、募集方針を明確にするとともに入学定員や入学選抜方法を明示し、学校訪問、オープンキャンパス、広報紙掲載など広く広報している。
- 学生定員については、入試応募が定員の2倍以下となったが、合格者の入学率は約6割以上を確保した。しかしながら、在学者が定員の90%をわずかながらではあるが下回っている。
- 進路・資格確保については、卒業後の進路状況は90%以上が看護職を選んでいるが、令和3年度の国家試験合格率が全国平均を下回ったため、改善に取り組み全国平均を確保する。

5 学生生活への支援 (4.1)

学修継続、社会活動などについて、次のように評価した。

- 定期健康診断の実施、臨地実習での感染防止対策などにより学生の健康管理を十分に行っている。
- 学生相談の専任カウンセラーを置き、学生相談の窓口を設けていることを学生に周知するなど、学生相談体制を整えている。

- 新型コロナ禍の中により地域活動やボランティア活動が出来なかったところもあるが、今後の活動拡大に向け、活動意識の啓発やさらなる支援体制の拡充などを実施したい。

6 施設整備 (4.0)

教育・学習環境、実習施設などについて、次のように評価した。

- クラス数に見合った専用の普通教室を持っていることをはじめ、実習室、演習室、パソコン教室、図書室、講堂など学習に必要な校舎機能を有している。
- 福利厚生施設については、専用の保健室があるほか、学生が自習できるスペース、男女別のトイレ・更衣室、学生ホールが整備されている。
- 教材については、教育内容に合った教材を計画的に整備し、定期的に点検している。また、標本や模型は学生数に見合った数を整備している。
- 実習において基礎的看護に必要な図書や看護用具が整備され、また、実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している。

7 教職員の育成 (3.4)

研究・研修活動などについて、次のように評価した。

- 教員間で相手の立場や役割を理解したコミュニケーションを取り、お互いの個性を生かしながら様々な課題に取り組んでいるなど、組織が円滑に機能している。
- 研究活動のための予算確保が支援され、研究・研修への年間予算経過が設定されているが、教員の専門領域における研究活動には取り組めなかった。
- 校外研修は、新型コロナ感染症の感染拡大によりZOOMでの研修となり、教員が平日の同じ時間帯に受講することができなかった。

8 広報 (4.0)

広報活動などについて、次のように評価した。

- 看護師養成の専門学校として、募集要項、スクールガイド及びポスター等を作成して様々な広報活動に使用している。
- オープンキャンパス、高校訪問、市村広報紙や新聞広告への掲載、イベント等の積極的なマスコミへの取材依頼など、多様な広報手段を利用し適切に広報活動を行っている。

9 地域との連携 (3.0)

地域との連携などについて、次のように評価した。

- 地域活動等や近隣施設などでのボランティア活動への参加、あるいは看護に関する公開授業等などについて、地域に根ざした専門学校としては大切などころではあるが、新型コロナ禍の中で十分に実施できなかった。

以上